

自然環境整備計画
【平成25年度～平成27年度】

みやざきけん
宮崎県

平成25年4月
(平成25年11月変更)

自然環境整備計画の目標、計画期間及び整備方針

都道府県名	宮崎県	個別地域	日南海岸国定公園(串間地区)
-------	-----	------	----------------

計画期間	平成 25 年度 ~ 平成 26 年度
------	---------------------

<p>目標</p> <p>大目標:魅力ある利用拠点の創造による安全で快適な自然とのふれあいを推進 目標1:園路や歩道、駐車場等の再整備により、景観の改善を図り、県民の自然とのふれあいの場や機会の確保を図る。 目標2:情報提供を的確に行い、利用施設の利便性の向上や安全性の確保を図る。</p>
--

<p>目標設定の根拠</p> <p>個別地域の現状 (日南都井線) ・串間市は、国内でも有数の景勝地である日南海岸国定公園の一画を形成しており、国道448号線沿いに日南海岸を南下すると、夫婦浦、築島、幸島があり、都井岬を目前にしたところに、全国のサーファーに知名度の高い恋ヶ浦が位置している。沿道はフェニックスやソテツ、ワシントン椰子、ハイビスカスなどの南国の植物に彩られており、南国宮崎を象徴する日南海岸のなかでも、青い海と入り江が織りなす風景の美しさによって、風光明媚な観光地としてよく知られている。サーフィンをはじめ、マリンスポーツを楽しむ市内外の人たちで賑わうが、トイレなど、最低限の環境整備が遅れている状態である。 (都井岬博物展示施設) ・串間市は、国内でも有数の景勝地である日南海岸国定公園の一画を形成しており、国道448号線を南下した最南端には、野生馬が生息することで著名な都井岬が位置している。雄大な青い海と緑の草原に、野生馬の群れが草を食む景観は、日南海岸でも屈指の風光明媚な観光地として著名である。近年、同施設が実施している自主事業「野生馬ガイドツアー」が大変好評であり、施設利用者数は平成23年:4,096人、平成24年:4,487人と、年々増加傾向にある。</p> <p>課題 (日南都井線) ・恋ヶ浦はサーフィンなどのマリンスポーツが盛んであり、市内外から利用者が多く訪れる。しかし、トイレや啓発看板等の整備が遅れているために、5月の連休や夏の休日は、利用者の路肩駐車や路上での車内泊が増えて事故等の危険性が高く、ゴミの不法投棄や野外での排泄が目立ち、国定公園の景観保全にも悪影響が生じているため、早急な整備が望まれている。 (都井岬博物展示施設) ・都井岬博物展示施設は、日南海岸国定公園・都井岬の価値を啓発するため、平成6年4月にオープンした。近年、参加体験型の観光メニューである「野生馬ガイドツアー」が開始されたことで利用者が増加傾向にあるが、同施設の身障者用トイレは設計が古く、手すりしか備えていない状態であることから、必要最低限の整備・改修が必要である。</p>

<p>個別地域の整備方針</p> <p>(日南都井線) ・景観と利用者へ配慮した啓発看板の設置や、トイレ・シャワー等の設置により、利用者の利便性の向上のみならず、自然とのふれあいの場を提供する等、自然体験学習の場としても寄与する。今後は、サーフィンをはじめ、ダイビング、釣りなどのマリンスポーツ、フルーツリズムなどの体験学習等で、日南海岸国定公園・恋ヶ浦の自然の素晴らしさに触れるような体験メニューを開発し、それが利用者の意識向上、国定公園の価値啓発と、環境保全にもつながるものと期待できる。</p> <p>(都井岬博物展示施設) ・同施設内の身障者用トイレは旧式の設計で、手すりしか設置されていない。背もたれがなければ利用できない、乳幼児と一緒にいる場合は利用し難い等、利用者からの苦情もあることから、パウチ・尿瓶洗浄水栓付きの背もたれや、ベビーチェア、ベビーベッドなども整備して、多目的トイレとして改修を施すことにより、身障者が親子連れでも利用しやすい施設整備がなされ、利用者の利便性の向上に寄与すると期待される。</p>	<p>方針に沿った主要な事業</p> <p>公衆便所改築 6㎡ 看板設置 1基</p> <p>身障者トイレ改修一式</p>
--	---

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	調査等の方法	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値	
						基準年度	目標年度
1. 宿泊者数	泊/年	恋ヶ浦地区の宿泊施設(民宿)の利用者泊数	観光統計	現行より1割程度の宿泊者の増加を目指す。	500	平成23年度	550 平成27年度
2. 利用者の不満足	%	利用者に対する利用環境への不満足	アンケート調査	利用者の施設への不満度を解消することを目指す。	5	平成24年度	0 平成27年度
3. 利用者数	人/年	都井岬博物展示施設の利用者数	観光統計	現行より1割程度の利用者の増加を目指す。	4,500	平成24年度	5,000 平成27年度

<p>その他必要な事項</p>

自然環境整備計画の目標、計画期間及び整備方針

都道府県名	宮崎県	個別地域	日豊海岸国定公園(日向地区)
-------	-----	------	----------------

計画期間	平成 25 年度 ~ 平成 27 年度
------	---------------------

<p>目標</p> <p>大目標:魅力ある観光地に磨き上げるまちづくり 目標1:園路や遊歩道の再整備により、景観にも配慮した観光拠点施設の充実により自然とのふれあい空間の創出を図る。 目標2:観光客ニーズを的確に把握し、利用施設の利便性の向上や安全性の確保を図る。</p>

<p>目標設定の根拠</p> <p>個別地域の現状</p> <p>日向岬は、日豊海岸国定公園リアス式海岸の南側に位置し、延長は約5kmにも及んでおり、屏風岩ともいわれる柱状節理の荒々しい岩肌が特徴的で、その一帯には本市の観光名所である「馬ヶ背」、「願いが叶うクルスの海」、「大御神社」などが点在していることから多くの観光客で賑わっている。</p> <p>課題</p> <p>日向岬の馬ヶ背遊歩道においては、年間約13万人の観光客が訪れる本市の観光拠点の一つである。遊歩道上部法面では、柱状節理の岩特有の風化による落石等の危険性が高まってきて、このようななか国定公園の安全かつ快適空間としての施設整備を実施することにより、観光客への安全確保を目的とし、併せて既存施設の老朽化施設の立て直しを図り観光客の利便性の向上を図る。</p>
--

<p>個別地域の整備方針</p> <p>・本事業を実施することにより、観光客への安全性・快適性が確保ができ、観光客が安心のできる施設の利用が可能となる。</p>	<p>方針に沿った主要な事業</p> <p>落石防護網工 A = 120.0㎡ ワイヤロープ掛工 A = 560.0㎡ 落石防護柵工 L = 130.0m</p>
・	
・	

目標を定量化する指標								
指 標	単 位	定 義	調査等の方法	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
						基準年度	目標年度	目標年度
利用者数	人/年	周辺地区を含む日向岬の利用者の数	観光統計	現行より1割程度の利用者の増加を目指す	130,000	平成23年度	143,000	平成28年度

<p>その他必要な事項</p>

自然環境整備計画の目標、計画期間及び整備方針

都道府県名	宮崎県	個別地域	九州中央山地国定公園(椎葉地区)
-------	-----	------	------------------

計画期間	平成 26 年度 ~ 平成 27 年度
------	---------------------

<p>目標</p> <p>大目標:魅力ある利用拠点の創造による安全で快適な自然とのふれあいを推進 目標1:休憩所(山小屋)改修により、安全で快適な自然体験の場としての機能を高める。 目標2:情報収集を的確に行い、利用施設の利便性の向上や安全性の確保を図る。</p>

<p>目標設定の根拠</p> <p>個別地域の現状</p> <p>霧立越線は、九州中央山地国定公園の中でも「九州の脊梁」と言われ、霧立越等の登山・縦走ルートとしても親しまれており、毎年県内外から多くの登山客や観光客が訪れる。また、村内でも小中学生の森林学習として利用される大変価値ある場所となっている。春から夏にかけては、涼風の心地よく、とても過ごしやすい環境の中、アケボノツツジやブナの群生地を楽しむことができ、秋には辺り一面に広がる紅葉を観賞、冬には雪化粧を纏った神秘的な景観が観光客を魅了するという四季折々で楽しめる観光地となっている。今回計画している登山道中腹辺りに位置する唯一の休憩所(山小屋)は、扇山にも繋がる絶好のポイントにあり、登山者の憩いの場として利用されている状況である。</p> <p>課題</p> <p>霧立線の休憩所(山小屋)は、建物基礎部分の腐食など老朽化が進んでおり、非常に危険な状況であることから、利用者から不安の声が上がっている。また、歩道においては、自然の状態であり、長年の浸食等により、歩行に支障がある箇所があることから、更なる利用者増加のためには、歩道の利便性向上が必要となってきている。</p>
--

<p>個別地域の整備方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休憩所(山小屋)の基礎部改修などを行う。また、歩道の洗掘箇所などの改修を行う。 ・自然歩道等においては極力既存の景観を残す配慮を行う。また、自然の素晴らしさに触れるような自然体験学習やトレッキングなどの体験メニューを開発し提供する。 	<p>方針に沿った主要な事業</p> <p>休憩所(山小屋)改修 N = 1棟 休憩所(山小屋)改修設計業務 N = 1式 歩道改修 L = 1.7km</p>
--	---

目標を定量化する指標								
指標	単位	定義	調査等の方法	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
						基準年度	目標年度	目標年度
利用者数	人/年	霧立越線の利用者数	観光統計	現行より1割程度の利用者の増加を目指す	3,000	平成24年度	3,300	平成28年度

<p>その他必要な事項</p>

自然環境整備計画の目標、計画期間及び整備方針

都道府県名	宮崎県	個別地域	祖母傾国定公園(高千穂地区)
-------	-----	------	----------------

計画期間	平成 26 年度 ~ 平成 26 年度
------	---------------------

<p>目標</p> <p>大目標:魅力ある観光地に磨き上げるまちづくり 目標1:駐車場や休憩所、歩道の再整備により、景観にも配慮した観光拠点施設の充実により自然とのふれあい空間の創出を図る。 目標2:観光客ニーズを的確に把握し、利用施設の利便性の向上や安全性の確保を図る。</p>

<p>目標設定の根拠</p> <p>個別地域の現状</p> <p>高千穂峡は、祖母傾国定公園の中に位置し、柱状節理等の希少な自然景観を楽しめる観光地として、年間を通じて多くの観光客が訪れる、県北観光行政上で重要な拠点である。近年では隣県の主要な観光地(阿蘇・九重観光圏)との連携強化を図っており、九州地方全体の中でも存在感を放つ観光地となれるような取り組みに努めている。</p> <p>課題</p> <p>高千穂峡を訪れる観光客は、中・大型バスを利用する団体ツアー客、自家用車を使用する個人客に大別される。どちらの場合も付近のいくつかの駐車場に停車して、そこから徒歩で園内の遊歩道(500m~1km)を周遊する形態をとる。さまざまな客層のニーズに応えるため(乳幼児連れの家族客、高齢者、歩行困難者等)、歩行者の利便性を高める周辺施設整備は重要な課題であると考えられる。</p>
--

<p>個別地域の整備方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既設駐車場を整備し、収容台数を増加させる。 ・遊歩道の終点付近に休憩所を整備し、歩行者の利便性を高める。 ・遊歩道の舗装路面を改修し、歩行者の安全を確保する。 	<p>方針に沿った主要な事業</p> <p>駐車場整備 A = 180㎡ 休憩所整備 A = 25㎡ 歩道改修 L = 400m</p>
--	---

目標を定量化する指標								
指 標	単 位	定 義	調査等の方法	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
						基準年度	目標年度	目標年度
利用者数の増加	人	高千穂峡の利用者数	利用者数調	現行より1割程度の利用者の増加を目指す	1,370,000	平成24年度	1,507,000	平成27年度

<p>その他必要な事項</p>

自然環境整備計画の目標、計画期間及び整備方針

都道府県名	宮崎県	個別地域	九州自然歩道(尾鈴コース)
-------	-----	------	---------------

計画期間	平成 25 年度 ~ 平成 27 年度
------	---------------------

目標 大目標:魅力ある利用拠点の創造による安全で快適な自然とのふれあいを推進 目標1:九州自然歩道の危険箇所の改善や防護柵等の設置により、安全で快適な自然体験の場としての機能を高める。 目標2:情報収集を的確に行い、利用施設の利便性の向上や安全性の確保を図る。
--

目標設定の根拠 個別地域の現状 (九州自然歩道) ・本県の九州自然歩道には年間200万人程度が訪れ、県北部の高千穂町から丹助岳、行藤山、尾鈴山麓、西都原、綾の照葉樹林などを經由し鹿児島県境の高千穂峰に至る372kmの歩道である。しかし、昭和51年に指定され20年以上を経過しており、その施設は至る箇所で老朽化や台風等の被害による腐朽や損壊が発生している。 ・本地域は、尾鈴県立自然公園内を通過する人気コースの一つで有り、沿線には日本の滝100選に選ばれた矢研の滝を中心とした尾鈴瀑布群や宮崎県固有種のキバナノツクヌキホトトギスを観賞することが出来るなど多くの利用者がいるが、経年変化や降雨等の影響により一部区間で歩道法面の崩壊や仮設歩道橋の流出等が発生しており、利用者の安全性や快適性の確保が望まれている。
課題 (九州自然歩道) ・九州自然歩道においては、今後もより多くの利用者に対し、安全で快適な利用を促進するため、通常の維持管理では修復不可能な歩道橋の再整備や、法面や路体の崩壊部分、急傾斜箇所等の防護柵の設置などを行い、危険箇所を解消する必要がある。また、登山道の起点や分岐点、結節点など要所での案内板や、老朽化した指導標等の整備が必要である。

個別地域の整備方針 ・周辺の風致、景観との調和を図るため、出来るだけ木材を使う。また、利用者の安全性を確保するため、法面保護や歩道橋設置を行う。 ・九州自然歩道の一体的な利用を促進するため、防護柵についてはこれら周辺の歩道を含め、外観のデザイン等を統一したものとす。	方針に沿った主要な事業 歩道法面保護 A=250㎡ 歩道橋新設 2基 (L=12m, L=15m)

目標を定量化する指標								
指 標	単 位	定 義	調査等の方法	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
						基準年度	目標年度	
利用者数の増加	人	尾鈴コースの利用者数	利用者数調	現行より1割程度の利用者の増加を目指す	28,000	平成23年度	30,000	平成28年度

その他必要な事項

自然環境整備計画の目標、計画期間及び整備方針

都道府県名	宮崎県	個別地域	九州自然歩道(綾・国富コース)
-------	-----	------	-----------------

計画期間	平成 25 年度 ~ 平成 27 年度
------	---------------------

<p>目標</p> <p>大目標:魅力ある利用拠点の創造による安全で快適な自然とのふれあいを推進 目標1:九州自然歩道の危険箇所改善や防護柵等の設置により、安全で快適な自然体験の場としての機能を高める。 目標2:情報収集を的確に行い、利用施設の利便性の向上や安全性の確保を図る。</p>
--

<p>目標設定の根拠</p> <p>個別地域の現状</p> <p>(九州自然歩道) ・本県の九州自然歩道には年間200万人程度が訪れ、県北部の高千穂町から丹助岳、行藤山、尾鈴山麓、西都原、綾の照葉樹林などを経由し鹿児島県境の高千穂峰に至る372kmの歩道である。しかし、昭和51年に指定され20年以上を経過しており、その施設は至る箇所老朽化や台風等の被害による腐朽や損壊が発生している。 ・本地域は、九州中央山地国定公園綾地域に隣接し、法華岳公園や日本三薬師の一つである法華岳薬師寺の背後にそびえる釈迦ヶ岳登山等多くの利用者があるが、経年変化等の影響により一部区間で防護柵や指導標の損壊等が発生しており、利用者の安全性の確保が望まれている。</p> <p>課題</p> <p>(九州自然歩道) ・九州自然歩道においては、今後もより多くの利用者に対し、安全で快適な利用を促進するため、通常の維持管理では修復不可能な歩道橋の再整備や、法面や路体の崩壊部分、急傾斜箇所の安全柵の設置などを行い、危険箇所を解消する必要がある。また、登山道の起点や分岐点、結節点など要所での案内板や、老朽化した指導標等の整備が必要である。</p>
--

<p>個別地域の整備方針</p> <p>・周辺の風致、景観との調和を図るため、出来るだけ木材を使う。また、利用者の安全性を確保するため、防護柵設置等を行う。 ・九州自然歩道の一体的な利用を促進するため、防護柵についてはこれら周辺の歩道を含め、外観のデザイン等を統一したものとする。</p>	<p>方針に沿った主要な事業</p> <p>案内板2基 防護柵50m 指導標5基</p>
--	---

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	調査等の方法	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値	
						基準年度	目標年度
利用者数の増加	人	綾・国富コースの利用者数	利用者数調	現行より1割程度の利用者の増加を目指す	1,000	平成23年度	1,100 平成28年度

<p>その他必要な事項</p>

自然環境整備計画の目標、計画期間及び整備方針

都道府県名	宮崎県	個別地域	九州自然歩道(高千穂コース)
-------	-----	------	----------------

計画期間	平成 25 年度 ~ 平成 26 年度
------	---------------------

<p>目標</p> <p>大目標:魅力ある利用拠点の創造による安全で快適な自然とのふれあいを推進 目標1:九州自然歩道の危険箇所改善や防護柵等の設置により、安全で快適な自然体験の場としての機能を高める。 目標2:情報収集を的確に行い、利用施設の利便性の向上や安全性の確保を図る。</p>
--

<p>目標設定の根拠</p> <p>個別地域の現状</p> <p>(九州自然歩道) ・本県の九州自然歩道には年間200万人程度が訪れ、県北部の高千穂町から丹助岳、行藤山、尾鈴山麓、西都原、綾の照葉樹林などを経由し鹿児島県境の高千穂峰に至る372kmの歩道である。しかし、昭和51年に指定され20年以上を経過しており、その施設は至る箇所老朽化や台風等の被害による腐朽や損壊が発生している。 ・本地域は、祖母傾固定公園を中心として、高千穂峡、祖母山、高千穂神社等の自然景観や神話歴史を感じることが出来、県内で最も多くの利用者がいるが、経年変化や降雨等の影響により一部区間で指導標等の老朽化が発生し、利用者の安全性の確保が望まれている。さらに、利用者に応じた公衆便所の整備も望まれている。</p> <p>課題</p> <p>(九州自然歩道) ・九州自然歩道においては、今後もより多くの利用者に対し、安全で快適な利用を促進するため、通常の維持管理では修復不可能な歩道橋の再整備や、法面や路体の崩壊部分、急傾斜箇所の安全柵の設置などを行い、危険箇所を解消する必要がある。また、登山道の起点や分岐点、結節点など要所での案内板や、老朽化した指導標等の整備が必要である。</p>

<p>個別地域の整備方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺の風致、景観との調和を図るため、出来るだけ木材を使う。また、利用者の安全性を確保するため、指導標等の改修を行う。 ・九州自然歩道の一体的な利用を促進するため、指導標についてはこれら周辺の歩道を含め、外観のデザイン等を統一したものとする。 ・利用者の拠点に公衆便所を整備し利便性の向上を図るとともに、し尿の回収可能な箇所への設置により山岳環境の保全に努める。 	<p>方針に沿った主要な事業</p> <p>公衆便所新築 1棟 5㎡ 指導標改修 4基</p>
---	---

目標を定量化する指標								
指 標	単 位	定 義	調査等の方法	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
						基準年度	目標年度	目標年度
利用者数の増加	人	高千穂コースの利用者数	利用者数調査	現行より1割程度の利用者の増加を目指す	1,390,000	平成23年度	1,529,000	平成27年度

その他必要な事項

自然環境整備計画の目標、計画期間及び整備方針

都道府県名	宮崎県	個別地域	九州自然歩道(西都原コース)
-------	-----	------	----------------

計画期間	平成 26 年度 ~ 平成 26 年度
------	---------------------

<p>目標</p> <p>大目標: 魅力ある利用拠点の創造による安全で快適な自然とのふれあいを推進 目標1: 九州自然歩道の危険箇所改善や防護柵等の設置により、安全で快適な自然体験の場としての機能を高める。 目標2: 情報収集を的確に行い、利用施設の利便性の向上や安全性の確保を図る。</p>

<p>目標設定の根拠</p> <p>個別地域の現状</p> <p>(九州自然歩道) ・本県の九州自然歩道には年間200万人程度が訪れ、県北部の高千穂町から丹助岳、行徳山、尾鈴山麓、西都原、綾の照葉樹林などを経由し鹿児島県境の高千穂峰に至る372kmの歩道である。しかし、昭和51年に指定され20年以上を経過しており、その施設は至る箇所老朽化や台風等の被害による腐朽や損壊が発生している。 ・本地域は、西都原杉安峽県立自然公園を中心として、自然景観や古墳群等の歴史を感じることが出来るため多くの利用者があるが、経年変化や降雨等の影響により一部区間で防護柵や歩道路体の損壊等が発生しており、利用者の安全性の確保が望まれている。</p> <p>課題</p> <p>(九州自然歩道) ・九州自然歩道においては、今後もより多くの利用者に対し、安全で快適な利用を促進するため、通常の維持管理では修復不可能な歩道橋の再整備や、法面や路体の崩壊部分、急傾斜箇所の安全柵の設置などを行い、危険箇所を解消する必要がある。また、登山道の起点や分岐点、結節点など要所での案内板や、老朽化した指導標等の整備が必要である。</p>
--

個別地域の整備方針	方針に沿った主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> ・周辺の風致、景観との調和を図るため、出来るだけ木材を使う。また、利用者の安全性を確保するため、防護柵設置や舗装改修を行う。 ・九州自然歩道の一体的な利用を促進するため、防護柵についてはこれら周辺の歩道を含め、外観のデザイン等を統一したものとする。 	防護柵改修 L=300m 舗装改修 L=200m

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	調査等の方法	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値	
						基準年度	目標年度
利用者数の増加	人	西都原コースの利用者数	利用者数調査	現行より1割程度の利用者の増加を目指す	8,000	平成23年度	8,800 平成27年度

その他必要な事項

交付対象事業等一覧表(1)

(金額の単位は千円)

交付対象事業費	148,882	交付限度額	66,996
---------	---------	-------	--------

交付対象事業

1 国定公園に係る事業(生態系維持回復事業を含む)

番号	公園名	事業名	事業箇所	事業主体	(参考)全体事業費	(参考)全体事業期間		交付対象事業費	(参考)うち都道府県費	(参考)うち市町村費	(参考)交付対象事業費の年次配分				
						開始年度	終了年度				1年目(25年度)	2年目(26年度)	3年目(27年度)	4年目(年度)	5年目(年度)
1-1	日南海岸国定公園	日南都井線道路(車道)事業	串間市恋ヶ浦	串間市	10,000	H25	H25	10,000		5,500	10,000				
1-2	日豊海岸国定公園	日向岬園地事業	日向市馬ヶ背	日向市	41,000	H25	H27	41,000		22,550	9,000	15,500	16,500		
1-3	日南海岸国定公園	都井岬博物館展示施設事業	串間市都井岬	串間市	1,000	H26	H26	1,000		550		1,000			
1-4	九州中央山地国定公園	霧立越線(歩道)事業	椎葉村扇山	椎葉村	12,500	H26	H27	12,500		6,875		6,500	6,000		
1-5	祖母傾国定公園	高千穂峽園地事業	高千穂町三田井	高千穂町	15,500	H26	H26	15,500		8,525		15,500			
					80,000			80,000	0	44,000	19,000	38,500	22,500	0	0

2 国指定鳥獣保護区に係る事業(国定公園外において行われる自然再生施設の整備事業であって、平成18年度以前からの継続事業であるもの)

番号	国指定鳥獣保護区名	事業名	事業箇所	事業主体	(参考)全体事業費	(参考)全体事業期間		交付対象事業費	(参考)うち都道府県費	(参考)うち市町村費	(参考)交付対象事業費の年次配分				
						開始年度	終了年度				1年目(年度)	2年目(年度)	3年目(年度)	4年目(年度)	5年目(年度)
					0			0	0	0	0	0	0	0	0

3 長距離自然歩道に係る事業(国立公園及び国定公園内の事業は除く)

番号	長距離自然歩道名	事業名	事業箇所	事業主体	(参考)全体事業費	(参考)全体事業期間		交付対象事業費	(参考)うち都道府県費	(参考)うち市町村費	(参考)交付対象事業費の年次配分				
						開始年度	終了年度				1年目(25年度)	2年目(26年度)	3年目(27年度)	4年目(年度)	5年目(年度)
3-1	九州自然歩道	九州自然歩道整備事業	尾鈴コース(都農町)	県	28,800	H22	H27	28,800	15,840		9,800		19,000		
3-2	九州自然歩道	九州自然歩道整備事業	綾・国富コース(国富町)	県	5,410	H25	H25	5,410	2,976		5,410				
3-3	九州自然歩道	九州自然歩道整備事業	高千穂コース(高千穂町)	高千穂町	2,000	H25	H25	2,000		1,100	2,000				
3-4	九州自然歩道	九州自然歩道整備事業	尾鈴コース(日向市)	県	22,172	H26	H27	22,172	12,195			5,000	17,172		
3-5	九州自然歩道	九州自然歩道整備事業	西都原コース(西都市)	県	8,500	H26	H26	8,500	4,675			8,500			
3-6	九州自然歩道	九州自然歩道整備事業	高千穂コース(高千穂町)	県	2,000	H26	H26	2,000	1,100			2,000			
					68,882			68,882	36,786	1,100	17,210	15,500	36,172	0	0

4 合計

番号	事業名	事業箇所	事業主体	(参考)全体事業費	(参考)全体事業期間		交付対象事業費	(参考)うち都道府県費	(参考)うち市町村費	(参考)交付対象事業費の年次配分				
					開始年度	終了年度				1年目(25年度)	2年目(26年度)	3年目(27年度)	4年目(年度)	5年目(年度)
				148,882			148,882	36,786	45,100	36,210	54,000	58,672	0	0

